

◆ 平成 21 年度（前期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネーター	日・時	実施場所	実施内容
人間文化学部 健康科学科	学科長：江島洋介 学科 FD 委員： 増山悦子・菅原芳明	①平成 21 年 4 月 1 日（水） ～4 月 30 日（木）	特に定めない	実施目的： 学科における「教育改善」を目的として、2008 年度後期「学生による授業評価」に対する担当教員コメントの集計結果について、学科教員全員で共有化を図る。 ※詳細は別紙 1 参照
		②平成 21 年 5 月 14 日（木） 14：40～16：00	大講義室	実施目的： 学科における「教育改善」を目的として、5/14 実施の「オリエンテーションセミナー」時に「健康科学について考えよう」と題するシンポジウムを開催し、その成果を学科の教育改善に結び付ける一つの試みとした。学科の全教員と全学生（1～4 年生全員）が参加する教育改善活動として企画。 実施内容： 「オリゼミ健康科学シンポジウム」：4 名の学科助教が、次のタイトルにて各々プレゼンテーションを行った後、総合討論を兼ねた質疑・応答を実施 ・「健康科学について考えよう（佐野の視点）」 ・「健康科学について考えよう（森脇の視点）」 ・「健康科学について考えよう（山岡の視点）」 ・「健康科学について考えよう（上田の視点）」 ・総合討論 ・アンケート調査の実施 ※アンケートの結果についての詳細は別紙 2 参照
経営情報学部	学科長：山本努			テーマ：広島県立大学過年度学生への対策とそれをめぐる教員・教学課担当との情報交換、協力関係の構築 簡単な状況報告： 定期的に過年度生指導対策検討会議を開催し、学生の状況を確認した上で、主指導教員により継続的な個別指導に加え、必要に応じて学科全体のオリエンテーションを実施した。各活動の詳細は以下の通り。
		①平成 21 年 3 月 24 日（火） 4:00-16:00	1243 講義室	実施内容：旧経営学科第 1 回オリエンテーション 参加人数：8 名（内 3 名学生，1 名庄原キャンパス教学課職員） 状況報告：履修ガイダンスの実施，卒業までの履修年度計画作成
		②平成 21 年 4 月 8 日（水） 16:20-16:50	1212 会議室	実施内容：旧経営学科第 1 回過年度生指導対策検討会議 参加人数：8 名 状況報告：各学生の出席状況確認（各指導教員より報告），今後の対応策・指導方針の検討
		③平成 21 年 6 月 10 日（水） 16:20-17:20	1212 会議室	実施内容：旧経営学科第 2 回過年度生指導対策検討会議 参加人数：8 名 状況報告：各学生の出席状況調査の結果確認，全学生出席状況不良のため，平成 21 年 6 月 16 日に第 2 回オリエンテーションを実施することを決定

実施主体	コーディネーター	日・時	実施場所	実施内容
		④平成 21 年 6 月 16 日(火) 16:30-17:15	1512 経営情報学部 学部部長室	実施内容：旧経営学科第 2 回オリエンテーション 参加人数：8 名（内 3 名学生） 状況報告：各学生の現状および卒業・学業に対する意欲の確認，個別履修指導
		⑤平成 21 年 10 月 14 日(水) 16:30-16:55	1212 会議室	実施内容：旧経営学科第 3 回過年度生指導対策検討会議 参加人数：7 名 状況報告：各学生の前期単位取得状況の確認，今後の対応策・指導方針の検討
保健福祉学部 看護学科	学科 FD 委員： 松森直美			テーマ：看護学科の教育課程における実践的教授法の見直しと再構築～看護倫理・看護技術教育の検討
		①平成 21 年 4 月 20 日(月) 16：20～18：00 ②平成 21 年 5 月 22 日(金) 16：20～17：30 ③平成 21 年 6 月 22 日(月) 16：20～17：50 ④平成 21 年 7 月 27 日(月) 15：00～16：20 ⑤平成 21 年 9 月 15 日(月) 10：40～12：10	3416 室	実施内容：検討会議 参加者数：9 名 簡単な状況報告： 検討会議では，昨年度実施した学生への看護倫理の意識調査の結果の分析を行っている。主に 1 年生と 4 年生の自由記述の比較分析を行っており，次年度の日本看護倫理学会での発表を目標としてまとめを行っている。また，10 月開催予定の学生を対象とした研修会の企画を行った。
		⑥平成 21 年 6 月 29 日(月) 16：20～18：00	1207 会議室	実施内容：FD 講演会 簡単な状況報告： FD 講演会では，昨年度の看護学科 FD 活動の報告を行った。
		⑦平成 21 年 9 月 30 日(水) 10：40～12：10/ 13：00～14：40	2202 講義室	実施内容：看護倫理ワークショップ 参加者数：15 名 簡単な状況報告： 看護倫理ワークショップでは，教員 2 名が参加した平成 21 年度日本看護系大学協議会看護学教育研究倫理検討委員会主催のワークショップ「臨地実習における倫理的課題と教育について」での事例検討をもとに学内でも教員 15 名に対してグループワークを行った。
保健福祉学部 理学療法学科	学科長：大塚彰	①平成 21 年 5 月～7 月の毎週水曜日の 14 時 40 分～16 時 10 分の中で実施	2416 会議室	テーマ：①臨床実習の検討 ー臨床実習における学生の問題の把握と対応ー ②学科勉強会開催 ③学科会議内学生支援に関する検討会 参加者数：学科教員全員。ただし，②については，他学科に案内を出し，毎回 3 名程度の参加を得た。 簡単な状況報告： ①理学療法学科 4 年の「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」における学生の進捗状況について，チューターあるいは実習地訪問教員が報告あるいは問題を提起し，それについて全員で討議した。 ②学科教員が教育と研究およびその関係について持ち回り制で発表した。 ③各学年のチューターが学生の学習進捗状況の報告あるいは問題を提起し，それについて全員で討議した。

実施主体	コーディネーター	日・時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 作業療法学科	学科 FD 委員： 田端幸枝	情報の共有化や学生指導の 検討は月 2 回の学科会議に おいて実施。	三原キャンパス 2416 会議室	<p>テーマ：FD 活動の定着</p> <p>実施目的： 作業療法学科教員の FD 活動に対する理解を増し、重要性の認識をより深める。そして、本活動により教員間の教育に関する情報の共有化を推進、教育の質の組織的向上を図る。</p> <p>実施内容：</p> <p>① 情報の共有 学科会議において学業不振者、健康状態に心配のある者、臨床実習で問題が生じた学生の指導等について情報が共有された。</p> <p>② 教育の質の組織的向上 学科の FD 活動を 1 回実施した。 (平成 21 年 7 月 22 日 (水) 川原田淳教授による「狭義の FD が招く誤解と広義の FD について」 参加者数：11 名) その他に教員間で抄読会等を行い、専門知識の組織的向上を図った。</p> <p>③ 丁寧な学生指導 1 初年次教育に対しては 1 年生のチューターが個人面談を行い、学生が困っていることや履修について指導した。</p> <p>④ 丁寧な学生指導 2 国家試験対策として学生が準備を十分に行えるように、臨床実習の実施期間を早めた。昨年の不合格者へのフォローを実施している。</p>
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	学科 FD 委員： 本多留美	①平成 21 年 6 月 3 日 (水) 12:10～ および毎月の 学科会議	1319・1310 演習 室	<p>テーマ：学生支援の充実</p> <p>実施内容：学生支援会議 参加者数：コミュニケーション障害学科教員 15～17 名</p> <p>簡単な状況報告： 学生の生活上のトラブルや、学外実習中の学生の状況などについて、教員間で情報を共有し、必要な対処法、解決法について話し合った。</p>
		②平成 21 年 5 月 18 日 (月) 平成 21 年 7 月 27 日 (月) いずれも 13:30～	4102 地域連携セ ンター	<p>テーマ：臨床教育の改善</p> <p>実施内容：実習指導者会議 参加者数：コミュニケーション障害学科教員 13 名および学外臨床実習の指導者 16 名ずつ (5/18, 7/27 ともに各 16 名参加)</p> <p>簡単な状況報告： 学外臨床実習指導者から、臨床現場からみた本学の教育について意見をいただいた。おおむねまじめな学習態度が身に付いているという評価であったが、嚙下障害に対して苦手意識を持っている学生が多いこと、疑問点を持ちにくく、何がわからないのかがよくわからない学生がいること、などの問題点が挙げられた。現代 GP の取り組みの一環として行われている「コミュニケーションふりかえりシート」についても有用なツールであるという意見をいただいた。</p>

実施主体	コーディネーター	日・時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 人間福祉学科	学科 FD 委員： 三原博光	平成 21 年 6 月 5 日（金） 16:00－18:00（準備） 平成 21 年 6 月 6 日（土） 9:00－14:00	体育館 調理実習室	<p>テーマ：地域の障害者との交流を通して、学生及び教員の福祉実践能力構築</p> <p>参加者数：障害者家族 40 名 人間福祉学科 60 名(1 年生～3 年生)</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>三原ゼミの 3 年生が企画・運営を実施し、人間福祉学科 1, 2, 3 年生 60 名がボランティアとして参加。一方、障害者家族・施設職員 40 名が参加し、体育館でビーチバレーボール、調理実習室でカレーの調理と試食会を行った。</p> <p>障害者家族との交流会後、学生及び障害者家族・施設職員に交流会の内容についてアンケート調査を実施した。その結果、参加した学生 60 名、ほぼ全員が交流会に満足していた。特に 1 年生は「地域の障害者家族の問題について、もっと知りたくなった。」「障害者の笑顔が素晴らしかった。来年もこの活動に参加したい。」と感想を述べていた。一方、障害者の両親・施設職員も学生との交流に満足し、学生達の障害者に接する暖かい配慮に感謝していた。</p>

## ＜平成 21 年度（前期） 健康科学科第 1 回 F D 活動（教育改善）報告書＞

### A さん：

学科総体としての授業評価成績の概観によると、「講義・演習科目」群については、設問 12 項目中 11 項目で、「実験・実習・実技科目」群については、設問 12 項目中すべての項目で、学科平均値がグループ平均値を（とくに「実験・実習・実技科目」群については大幅に）上回るというデータがでています。グループ平均そのものが 3 キャンパスの異質な集団の平均値であること、健康科学科の受講者数が 30 名代後半の中人数構成であること、基礎科学的な科目が多く含まれていること（もともと基礎科学的な科目は評点が低い傾向があるはず）を考えれば、十分に（驚くほど）高い値だと考えます。つまり、純粹に数値だけを見ても、本学科の先生がたが、40 名近い学生のレベルを正しく掌握し、それに基づいて、丁寧に質の高い授業をされていることの表れだと感じました。「手放しで安心」というわけではありませんが、ポイントの上で、これ以上を望む理由はないと思います。

科目ごとのコメントを拝読すると、それぞれに別々の苦勞されているのがわかります。「授業の進度」や「難易度」の項目でポイントにばらつきがあるのは、大学の授業だからむしろ当然だと思います。「レポートへの対応」が、大半の科目で高ポイントなのは印象的です（ふつう、ここはポイントを落とすところなのですが・・・）。それから、全く同じ内容なのに、昨年度の学生とのレスポンスの違いを指摘されている先生がたも少なくありませんでした。ある先生がいみじくも書かれているように「学生が変われば評価も変わる、一喜一憂に値せず」は同感です。

### B さん：

実験・実習については、学科全体として、学生の意欲的な取り組みが確認でき、励みになる。「レポート等への適切な対応」、「教員個々の熱意」等の評価が高いことから、先生方の熱意ある実験実習への取り組み、学生に対する対応が、学生に伝わっているものと推察される。「総合的な授業の評価・満足度」は、グループ平均値 3.42 に対して学科平均は 3.63 の高い評価を得ており、学科全体で見ても、満足度の高い実験・実習を提供していることが窺え、たいへん励みになる。先生方の熱意を見習いながら、機器の整備や、安全面の確保などを怠らないようにしつつ、さらに実験実習を充実させていきたい。

講義については、学科全体の評価では、「教科書や補助教材の適切かつ有効な使用」、「教員の熱意」が高値を示しているが、学生の意欲的な取り組みは、いまひとつ低い評価であることが残念だ。学生の意欲を実験実習では引き出せているのに、講義・演習では、学生がやや受身になっているのだろうか。自ら実験をして体験から学ぶ形態と、講義を聴くという形態の違いかも知れない。レポートだけでなく、授業の場で、学生の質問や意見を引き出す工夫が必要であると思われる。実際に、質問や意見を促しても、なかなか、学生からの声を引き出すのは難しい。教員と学生の双方向からの発言、意見を交わす場の作り方を学びたい。また、予習を促すような工夫もしなければならぬのかと思われる。そうすれば、学生からも意見が出てくるのかもしれない。

新カリキュラムについては、手順を踏んで、先生方や学生の意見を聞くことから始めているので、必ずよい方向に軌道は敷かれていると思う。栄養士関連科目と管理栄養士国家試験取得のための科目が段階的に取得するように整理されたことは、学生にとってわかりやすい履修形態となっている。ワーキンググループ (WG) の先生方のご尽力に感謝するばかりである。実施上の問題点は、これから出てくると思われるので、しばらく WG を中心に、対応をはかればよいと思われる。

### Cさん：

前・後期 2 回の「学生による授業評価」は総合教育センター主導のものである。当学科では、それら「学生による授業評価」の評価結果を受けて各教員が個々に作成する「担当教員コメント」を学科でまとめ、その集計した結果を学科全教員で共有化する。併せて、その集計結果に対して教員個々が擁いた「見解」についても、同様に、学科全教員で共有する。この事によって、学科独自の「教育改善活動」として来た。

今年度は、新カリキュラムスタート元年である。「学生による授業評価」⇒「担当教員コメント」の作成 ⇒「担当教員コメント」の学科におけるまとめ(集計) ⇒ その「集計結果」の学科全教員による共有化 ⇒ それに対する「見解」の作成 (教員個々) ⇒ 再度それらを学科全教員で共有化 ⇒ 学科の教育改善・・・のサイクルは、次期カリキュラムの改変 (見直し) に向けた“地道”ではあるが、“強力”な「梃子」になる・・・と信じつつ。

### Dさん：

以下、私自身の H20 後期授業評価に対する感想を記します。

1 年生の「私の授業」に対する H20 後期授業評価を背景に (「悪い!!」ということなのですが)、この春 (H21 前期) 開始の新 2 年生への授業の構成・内容・やり方をどうするかが、この春休み期間における私の最大の課題・・・でした。ただ、「課題」が大きすぎるためか、未だに、その解答は見出せずにあります・・・。ただし、その「代償」として・・・、心に去来したのが「Wine improves with age.」という言葉です。

振り返れば、4 年前 (H17 年度)、私は、この 3 月の卒業生達のチューター・・・に就任。H17 年当時、学科の多くの先生方は、その入学後間もない 1 年生達に抱いた印象を (私が一言で括るとすれば)、『え～、違うんじゃないの～ (当学科の“典型的な学生”ということでは) !!』だったのではないかと思います。当時、「平成 17 年問題」とも一般には称せられていた学生気質にかかわる社会的な大きな“うねり (変化)”の喧伝が、無意識下に、意識されてのこと(「印象」)だったのかも知れませんが。

チューターとして、彼・彼女ら (フレッシュマン) との付き合いを通して得た私なり結論は、(1) 高校時の「生物」履修者と非履修者間で、ベースとなる知識について、極めて大きな乖離がある (「化学」についても同様かと思いました)。ただし、(2)「生物」の非履修者であっても、皆一様に、また真剣な眼差しで、『先生、それでも私達はほんとうに勉強したい、学科の勉強に付いて行きたい!!』との言葉を、今でも、鮮明・鮮烈に思い出すことができます。

当時、大学では、「FD」の重要性が称せされ始めた時期とも重なる訳ですが、私自身、私

自身の授業に対する H17 年以降の「姿勢」に大きな変化ももたらした要因が在ったとすれば、それは、その彼・彼女ら 1 年生達の真剣な眼差し、そしてまた、「学科の勉強に付いて行きたい！！」と言う真摯な意思表示（意気込み）だったように思います。

爾来、その彼・彼女ら 1 年生達の真剣な眼差しに答えるために、私なりの「工夫」を凝らして来た・・・のも事実ではありますが、それはそれとして、4 年と言う時間・歳月が経過・・・この 3 月、その当時のフレッシュマンの大学から社会への巣立ちを見送った一人として、私の「思い」は、『まあ、4 年間辛抱すると、(双方) 辛抱した甲斐在って、皆それぞれに大した成長振り・・・』＝「Wine improves with age.」と。

「教育」と言う世界において、それ(Wine improves with age)は“楽観論”過ぎるのかも知れませんが、「教育」においてこそ (Wine と同様)、「待つ」と言うことが「大切」なのではと考えるに到ったのです。まあそれはそれとして (わが身の「現実」を振り返れば)、もうすぐその新 2 年生の「授業」が始まるのです・・・今、この「現実」に対する無策振りは・・・棚上げにしたまま、つまりは「不安」一杯の中で得たこれが唯一無二今の「結論」(笑) なのです。不一・長文にて、失礼致しました。

#### E さん：

先生方のコメント読ませていただきました。有り難うございます。

僕自身、今後どうするかと色々と事あるごとに考えましたが、やはり、自分のやり方でしかやれないという自明のことを再認識し、学生ではなく、自分が納得のいく大学らしい授業？をやろうと改めて思い直しました。自ら考え自ら行動する学生を育てるとはどういうことか、もっと必死に学生諸君と考えたい。

#### F さん：

以下、「授業評価に対するコメント」に対するコメントを記します。

グループ平均でも出席率は総じて高く、この頃の学生気質を感じる。さらに健康科学科の出席率が高いのは、学生の意欲の表れだと思し、満足度が高いのは、教員が並々ならぬ努力を重ねてきた成果だと評価できる。ただ、講義において意欲的な取組がやや低いのが気になる。

健康科学科の場合、授業数が多いというのもその原因のひとつかもしれない。実験のような体験型学習だと必然的にモチベーションも上がってくるが、対面式の講義形態では、予習や復習に時間をかけないと面白みが湧いてこないからではないか。しかし、何の備えもなしに講義を受けにくる学生のモチベーションを上げるには大変な労力と時間を要する。教員の努力はもちろんであるが、学生側の意識向上をはかる手立てや学ぶことの楽しさを伝えていく術や場が必要なかもしれない。教員は F D 研修の利用、学生へはフレッシュマンセミナーや基礎科学などがそれにあたるのであろうか。今後の推移を見守っていきたい。

#### G さん：

以下、第一回目の F D の感想です。このような F D のアンケートをとっていただくこと

により、普段意見の聞けない教員の考えがわかり、多くのことが反省させられます。大学教育、研究、大学運営、さらに地域貢献のどこかに重点をおき、精一杯各自がひとりひとり毎日職場で仕事ができることは、大学の使命と学問自由からして当然のようですが、これでいいのかと疑問をいただくこともあります。各論に戻りますと、出来れば今後いろんなテーマ(問題点)をだして、実際に議論して、健康科として共有すべきものを見つけるべきではないでしょうか。たとえば管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)にあわせた、カリキュラム変更は、試験のためでなく、社会で役に立ち、指導的な役割の出来る学生を育成するのにも、いいことだと思われれます。

### Hさん：

昨年度後期の授業評価へのコメントと、今後の新カリキュラムへの期待とのことです。が・・・。

後期の評価については、講義・実習共に、基本的に、学年の進行に伴い、また栄養士取得への密接度に伴い、いい評価がでているように感じます。これは、致し方のない部分もある結果ではないかと思えます。そんな中において、下の学年で、基礎的な科目をご担当の先生方のご尽力には、特に敬意を表します。

新カリキュラムは、全体の履修計画を見直された結果からでてきたあらたな取り組みとしますので、まさに、よりよく、これから4年間、機能して、いい教育に結びつくことを期待しています。以上、簡単ですが、宜しくお願い致します。

### Iさん：

結局まとまった文章として提出できませんでした。雑駁な感想としては・・・。

回を重ねるごとに、平均値の変動の一喜一憂するのではない、健康科学科独自の授業改善のシステム(或いは固有の文化)が形成されつつあると感じます。

学生の少数意見へ耳を傾けつつも、単に学生の趣向に迎合することなく、授業の質を確保するための条件整備や学生の知識・理解のレベルも同時に考慮しているという点にその特徴があるように思えます。そして、昨日(昨年)とは、一味違う講義を模索するという雰囲気と方向性は確立しつつあると感じます。

### Jさん：

先生方の授業評価に対するコメントを拝読いたしました。平成20年度の授業で、私自身が最大の目標に掲げていたのは、学生たちの授業への意欲的な取り組みでしたが、なかなか思うような成果をあげることができず、21年度に向けてどのように改善すべきか思い悩んでいたところでした。コメントから伝わってくる先生方の真摯なお気持ちから勇気をいただき、自分なりの改善法をまた工夫してみる気持ちになることができました。毎年、試行錯誤しながらの授業担当ですが、21年度も先生方のコメントを参考にして授業改善を図っていきたく思います。



### Kさん：

授業評価の集計を義務的・事務的な処理で終わらせるのではなく、教員がコメントし、それに対する学生の意見まで反映させるシステムは大変貴重なものだと思います。学生が教員を評価するのは当然の権利として定着している昨今ですが、本学科では「書きっぱなし」ではなく「自分たちも授業を真剣に受けようと思った」というアウトカムに到達している学生が多いことを嬉しく思いました。

### Lさん：

本学科学生は、学科開講科目に関して満足していると考えられる。県立広島大学としての健康科学科が完成年度を迎え、学生も落ち着き、本来あるべき大学としての授業が学生に受容されているのだと思う。21年度生からより学びやすいカリキュラムとなることでより大きな効果が現れることに期待している。授業評価のコメントとはずれるが、3年次生の大学院に進学したいという相談が多くなってきた。その分野は私個人の担当分野のみでなく、むしろ他分野が多い。「4年間では勉強が足りない気がする。もっと深く学びたい。どのように各大学の研究内容を調べればよいのか」という前向きな姿勢にこれまでの学科FDの成果が現れていると嬉しく感じている。今後、科目の難易度を下げることが学生自身の不利益になることや、大学の授業が資格取得のみを目的とした講義・実験実習ではないことを学生に伝えていくことで、学生は格段に飛躍すると期待している。

### Mさん：

「学生による授業評価」の結果から、先生方が授業の目標や難易度をどこに設定するか悩んでおられる様子を感じられました。個人的には、管理栄養士国家試験レベルを目標とするのでは不十分と思っていますが、先生方がどのように考えておられるか教えていただきたいと思いました。

「学生による授業評価」の数値だけでその授業を評価することは困難であり、先生のコメントにあるように、学生が変われば評価も変わるものと思います。授業に意欲的に取り組めたか、内容がわかりやすかったかも大切ですが、その授業を受けたことによって、何が理解できたか、何ができるようになったか学生が認識することも重要と思います。学生が授業の内容や教員の対応・熱意を評価するとともに、コースカタログに記載されているような「授業の目標」を達成できたかどうか、何をどこまで理解できたか、自分自身を評価するような項目が加われば、より価値のある授業評価になるのではと思います。

＜平成 21 年度（前期） 健康科学科第 2 回 F D 活動（教育改善）報告書＞

＜「オリゼミ健康科学シンポジウム」開催時、下記様式のアンケートを実施＞

Q1:『健康科学科のオリゼミでは、学科を構成する学生・教員が一同に会することから、(何らかの形で)「健康」や「健康を科学する」ことについて考える・・・ことにして来ました。今回のオリゼミにおける助教の方々のプレゼンテーションは、「健康」や「健康を科学する」ことについて、考える良いきっかけになりましたか?』

1. 「健康」や「健康を科学する」ことについて、深く考えるきっかけになった。
2. 良いきっかけになったと思う。
3. まあ、それほどでもなかった。
4. きっかけにすらならなかった。

Q2:『健康科学科のオリゼミでは、学生は、「学生自身の“将来”等について思いをはせる」。教員は、「学科の“将来”等について思いをはせる」として来ました。今回のオリゼミは、学生・教員それぞれ“将来”に思いをはせる良いきっかけになりましたか?』

1. “思いをはせる”良いきっかけになった。
2. まあ、それほどでもなかった。
3. きっかけにはならなかった。

Q3:『今回のオリゼミにおける助教の方々のプレゼンテーションについて、(率直な)感想や(忌憚のない)ご意見等を以下の自由記載欄にお書き下さい。また、来年度のオリゼミに向けた提案等がありましたら、(一言でも結構ですから)下記にお書きください。』

＜アンケート調査の集計結果（回収されたアンケート総数＝110 枚）＞

Q1:『今回のオリゼミにおける助教の方々のプレゼンテーションは、「健康」や「健康を科学する」ことについて、考える良いきっかけになりましたか?』

- |  |              |
|--|--------------|
| 1. 「健康」や「健康を科学する」ことについて、<br>深く考えるきっかけになった。 | 25 名 (22.7%) |
| 2. 良いきっかけになったと思う。                          | 75 (68.2%)   |
| 3. まあ、それほどでもなかった。                          | 9 ( 8.2%)    |
| 4. きっかけにすらならなかった。                          | 0 ( 0.0%)    |
| 無回答  | 1 ( 0.9%)    |

Q2:『今回のオリゼミは、学生・教員それぞれ“将来”に思いをはせる良いきっかけになりましたか?』

- |                        |               |
|------------------------|---------------|
| 1. “思いをはせる”良いきっかけになった。 | 103 名 (93.6%) |
| 2. まあ、それほどでもなかった。      | 5 ( 4.6%)     |
| 3. きっかけにはならなかった。       | 1 ( 0.9%)     |
| 無回答                    | 1 ( 0.9%)     |

Q3:『今回のオリゼミにおける助教の方々のプレゼンテーションについて、(率直な)感想や(忌憚のない)ご意見等を以下の自由記載欄にお書き下さい。また、来年度のオリゼミに向けた提案等がありましたなら、(一言でも結構ですから)下記にお書きください。』

- 
- 一学年 35 名という少人数の学科です。専門職として同学年だけでなく上下の先輩・後輩(卒業後はとても大切な存在になります)との“キズナ”を大切にみんなで団結して県立広島大学健康科学科を盛り上げていきましょう。
  - きちょう一なお話がきけてよかったです。
  - とても良い話を聞けて、良かったと思う。来年もこういう感じでやれると良いと思う。
  - 身近に感じられ、良かったです。
  - 普段聞けない先生達の話の話を聞けてよかったです。
  - 年齢の近い先生方のお話を聞くことができたので、とても興味深かったです。大学時代の写真なども見せて頂けて楽しかったです。
  - バレーより、バスケがいいです。
  - ふだん聞けないことが聞けてよかったです。
  - 普段、あまりお話を聞く機会のない助教の方々のプレゼンテーションを聞くことができ、貴重な時間をすごせたと思う。学生時代のお話が聞けたので、これからの自分の将来を考える良いきっかけとなった。
  - 助教の先生方の学生時代などの過去の話の話を聞けてとても楽しかったです。
  - 家庭と仕事の両立ができているのがすごいなと思いました。まだ研究とかよく分からないけど、大学院への進学等について、少し考えるきっかけになったと思います。助教の方々の話を聞いて、さらに教授の方々の話も聞いてみたくなりました。
  - 研究室訪問したいです。
  - 先生がめっちゃしゃべってくれた。／しゃべる人、少なかった。／お弁当おいしかった。／でもおなかいっぱい苦しかった(笑)／バレーのときは先生が参加してくれて楽しかった。
  - 先生方の色々な話が聞けて良かったです。午前中のバレーだと、午後(少し)疲れが出てしまうので、順番が逆だと良かったです。
  - 先生方の経歴を聞くことができ、大変充実したプレゼンであった。将来の思いをはせるという点では良いものがあったが健康を考えるという点では物足りない感じがした。
  - 助教の先生たちも最初から大学の先生になろうと思ってなかったわけではないんだなと思いました。これから先の将来について、今まではばく然としていたけど、少し具体的にかんがえられるようになったかなと思います。いい機会だったと思います。
  - 今まで研究するという考えはなかったけど、先生方の話を聞いて研究するのも楽しそうだと思った。あまり視野をせまくしすぎないで、いろいろな職種に興味をもって自分が興味をもてるものを探したいと思った。大学院にいくつもりはなかったけど、いったほうがいいのかと思った。3年生からは忙しいらしいので、2年生の間にいっぱいしたいことをしようと思います。

- ーオリゼミに向けた提言ー一人一人ニックネームをかいた名札をつけておくと、名前をよびやすくなっていいな～と思いました。
- 実験・実習の時しか会わない先生方の話が聞けて良かったです。
- 昼の休憩が長く、先生の研究室でいろいろ話せてよかったです。いろいろ話をできたけど、始めにすごく時間がある事に気付いて、2時間半もつか自身がなかった。でも何とかあったのでよかったです。
- 先生方の大学生活など日頃聞けない話でとても参考になりました。
- これからの大学生活について参考になりました。
- 健康科学科で学び、社会へ出て活躍されるご苦労や研究の楽しみがわかって良かったと思います。
- 申し訳ないんですが、午前のバレーで、眠かったので、少し聞きのがしてしまいました・・・。
- 約2hのお昼タイムはつらすぎた・・・。だらだらすぎた、話が。去年みたいに教授の部屋にいておやつ&お茶しつつ1hくらい話した方が時間が限られてて、内容が蜜になってよかった。
- 先生方の過去（学生時代）の様子や、現在の研究に対する姿勢などのお話が聞けてとても楽しかったです。
- 助教の先生方のお話は、あまり聞く機会がなかったので、とてもおもしろかったです。4人の先生方のお話を聞いて、一番思ったのが、私が先生方の年齢になった時に、このように振り返って語れる人生であつたらいいなと思いました。就活に真剣になれなくて、自分のしたいことはなんだろうとか、どうしてこの研究をしているんだろうとか悩むこともたくさんありますが、目の前にあることに一生懸命とりくんでいきたいです。
- 4人の先生についていろいろなことを知れてよかった。山岡先生が、人より先に答えを知ることはおもしろいと言われていました。今は「研究」にあまり興味が持てないけど、少し「研究」を身近に感じました。今日のオリゼミは、お昼の時間が楽しかったので、今日のように、お昼休みをいっぱいってほしいです。
- 助教の方々の学生の頃の話や、進路を決めたきっかけなどの話を聞くことができて良かった。
- オリゼミは、先輩や先生と話をする良い機会になりました。助教の先生方のお話は、自分の将来を考えるためのヒントになったと思うし、いろんな話が聞けて、とても良い経験になりました。
- 藤田先生の学生時代のノートを私も見たいです。ーオリゼミの感想ー他の助教の先生の話も聞いてみたかったのですが、スポーツをやり、ご飯を食べた後に椅子に座って1時間半受身で聞くのは少しつらかったです。
- 昼休憩が長くて、たくさんしゃべれて良かった。
- 先生たちの話を聞いてみて・・・、今すごい先生なのに学生の頃は失敗や経験を通じて今にいたるのだなと感じ、私も、いろいろな人に出会って、自分ができることが強みになるものを持てたらいいなと思います。

- 助教の先生の話をおきくことで、卒業後の具体的な進路を知ることが出来たので参考になりました。
- もっとかたくなるしい講義なのかと思ってたけど、全然そんな感じでなくて楽しく話が聞けました。
- 普段あんまり聞くことのできない先生方の大学の時の話をきくことができ、とても参考になりました。まだあんまり考えたことなかったけど、将来について色々考えていきたいなと思いました。
- 卒業生の先生もいて、参考になりました。
- 先生の過去の話などを聞いてよかったです。今後に役立てたらいいなと思いました。
- 楽しかったです。森脇先生の話がとてもよかったです。
- 楽しかったし、先輩方や先生にいろいろな話を聞いてよかったです。
- 先生達はとても研究熱心でいろんなことに興味をもっておられます。自分も、いろんなことに興味・疑問をもてるようになりたいと思いました。
- 「研究」についての「率直」な山岡先生のお話や話しぶりにカンゲキしました。「研究って、面白い！！」がストレートに伝わって来るように感じました。ありがとうございました。
- 普段あまり接することのできない先生方のお話を聞くことができ、よい経験となったと思います。オリゼミ全体を通して、様々な学年と触れ合うことができ、お互いいろいろな話ができて良かったと思います。
- 自分の知らない大学院や研究についての話を聞いてよかったです。
- これから研究室を選んだり、職業を選んだりする上での参考にしたいと強く感じました。4人の先生方の学生時代からの考え方等が聴けて、興味深かったです。ありがとうございました。
- お話聞いてよかったです。
- 今は、将来の事はよく分からないけど、これから何か興味を持てることを見つけられたらなあと思いました。
- 昼休みが長かったのは、とてもよかったです。
- 先生方の研究内容のお話は興味深くおもしろかったです。
- 若い先生なので身近に感じられた。
- 普段なかなか聞くことのできない先輩や先生方のお話を聞けるととてもいい機会となってよかったです。
- 同じ大学を出て同じところに就職されていてもそれまでの過程はそれぞれで、色々な先生の考え方や生き方が聞いて良かったと思います。
- 院に行きたいという気持ちが高まりました。先輩との談話の時間がもっとほしいです。
- 「英語をもっと勉強しておけば良かった」という言葉があったので、今は大変だけど頑張ってみようと思った。
- 先生方の経歴などいろいろな話が聞いて楽しかった。研究が少し楽しみになった。
- 先生たちの経歴を聞いて、いろんな生き方があるんだなと思いました。短い学生生活を充実したものにさせようと思えるきっかけになりました。

- 研究してみたいと少し思いました。
- なかなか普段聞くことのできない助教の方々の話を聞くことができ、とてもいい機会だったと思います。経歴や研究内容なども詳しく聞くことができたのでよかったです。
- あまり接点がなかったので、過去の話聞いて良かったです。
- 先生たちの貴重な話が聞いてよかったです。
- 英語の勉強もしようと思いました。管理栄養士の国家試験を受けることを考えながら勉強していきたいです。
- 意外に興味深かった。けど、もうちょっと短くてもいいかなと思った。来年も、若い先生の話だったらいいと思う。
- 先生方の新たな顔が見られたように思います。
- いつ、人生の転機（ゼミを決めるきっかけや将来の進路について）があるかわからないんだなと思った。
- 大学院に行くのも有りだなと思った。
- 普段全く話さない助教の方々のお話を聞くのは楽しかったです。身近に大学を出て就職した人がほとんどいないので、経歴などを聞かせていただいて良かったです。
- 山岡先生の話は、すごく良かった。“研究”というものについて考えさせられた。もちろん、他の先生も素晴らしい貴重な話が聞けました。楽しかったです。賞品もおかしも、予算があったのか、会計係が頑張ったのか、参加して良かったです。
- 山岡先生の「何もせず悩むのは時間のムダ！！目の前にあることをやりながら悩むのならよし！！」という言葉が印象的でした。今の自分にできていないなーと思いました。これからは「やりながら悩む」を実践せねば！！
- 学生と年令の近い助教の先生方のお話はふだん伺う機会のない内容で、興味深く聞かせて頂きました。4名の先生方の話の内容も、切り口がいろいろで、バランスが取れていたように思います。
- 「英語で論文を発表した」とか、「何かのメカニズムを解明する研究をしている」とか、カッコイイなと思いました。
- “研究”に対する印象が変わりました。疑問→知りたいということが研究の一步ということは、自分でも身近にかんじることができました。将来の選択肢が広がりました。お昼の時間は14:00~の方が良かったと思います。
- 先生達にも、私達と同じような時期があったのだなと思った。今3年なので、就職とか研究室を決めるなど色々不安だったけど、聞いてよかったです。あと昔の写真とかみれて楽しかった。
- 先生方もいろいろな敬意を経て今があるのだと思った。どんな道を選んでも、学ぶ意欲さえあればいくらでも勉強できるのだとわかった。貴重なお話をありがとうございました！！
- 先生の学生時代の話とかきけてよかったです。将来のことや研究室のことなどいろいろ考えるよいきっかけになりました。
- 今までのオリゼミよりも、身近な話を聞くことができたので楽しかったです。これか

らの大学生活にいかせていけたらいいなと思います。また、これからの進路を考えるうえでも参考になる話だったかなと思います。あと、今日はお昼の時間が 2 時間半もあったのがすごいよかったです！！でももっとあってもよかったけど・・・(笑)。今までのオリゼミよりも班のみんなと話せたので楽しかったです。

- 助教の先生方は、私たちと他の先生方よりも年が近いので、先生方の学生時代の話が聞けて、今まで以上に親近感がわきました。また、先生方の話を聞いて、手遅れかもしれないけど・・・卒業までしっかり勉強しようと思いました。よゆうがあれば英語も！！
- いいお話が聞けました。まだまだ悩んでいいんだなーと思いました。(ただし、やることをやりつつ。) まだ若いし、いろんな人生でいいよなーって考えました。私も流れにまかせつつ・・・。ただ、オリゼミ自体は、午前にはがんばりすぎて、午後の話しのときに皆がねむそうだったので、どーしたらいいものか・・・と思いました。とにかく無事おわってよかったですー。来年を楽しみにしてます。
- 助教の先生方の話は普段あまり聞けないのでとてもいい機会でした。
- 先生方の大学生活が知れてよかったです。
- 進学に関する話はあまり聞けないので、為になりました。ありがとうございました。
- 健康科の中で交流できてよかったです。
- これからは、日頃の疑問をもっと大切にしようと思いました。
- 助教の先生の話は、普段なかなかきくことができないので、今後の参考にしたいです。ありがとうございました！！
- 先生の話が聞けて、これからの大学生活についていろいろ学ぶことができよかったです。
- 講話そのものはとても有意義で、学生にとっては、大なり小なりモチベーションを高めてくれたと思っています。ただ、Q1, Q2の主旨に関しては弱かったように思えました。それぞれに健康科学に対する思い、また、それを踏まえて、将来の健康化学科がどんな風になってほしいかという夢か希望を掲げる(?) 時間を与えてあげればよかったかと思いました。いずれにしろ、このような時を持てたことは大変よかったです。実行委員の方、ありがとう！
- 生きる指針のようなものをいただきました。
- ライフヒストリー研究として、報告できそうな貴重な話を聞くことができたと思います。かなり研究者志向が強かったようですが、効果があれば良いですね・・・。現場志向の学生は、どう感じたか知りたいです。“おとこ組”はどうだったのでしょうか・・・。
- ① ねむかった→オリゼミ バレーでつかれ、せんばいのおはなしにもつかれ(楽しかったです)、ついついねむってしまった！なにかねむらないような、目が覚めるようなことをしてほしい。② 先生方の声が小さくてききとれなかった。
- 毎日をたのしく、一日一日を大切にすごしていきたいと思いました。(午後の部) 大縄でも賞品がほしかったです。

